

墨田区立小・中学校で 「がん教育」 を行っています。

保護者の皆様へ

小学校6年生と中学校2年生を対象に、健康教育の一環として、がんの仕組みやがん予防に関する正しい知識を学ぶ「がん教育」を行っています。

ご家庭でも、がんについて考えるとともに、健康や命の大切さについて、お子様と話し合う機会を作ってみてください。

Q なぜ、「がん教育」を行うのでしょうか？



A

今、日本人の**2**人に**1**人が一生のうちにがんになるといわれており、がんは日本人の死亡原因のトップになっています。

墨田区では、総死亡数の約1/4 (※1) ががんで亡くなっています。



男性では
61.1%
(※2)



女性では
50.1%
(※2)

がん教育への期待

- がんの仕組みやがん予防について学ぶことで、がんを身近な病気としてとらえ、子供のうちからがんについての正しい知識を身に付けます。
- 子供だけでなく、家族でがんの予防等について考えていただき、がんによる死亡を減らし、がんになっても自分らしく暮らせる地域社会をめざします。



(※1) 出典: 墨田の福祉ー保健 令和6年データ

(※2) 出典: 国立がん研究センター「がん情報サービス」2021年データ 生涯でがん罹患する確率

令和8年7月

墨田区教育委員会事務局指導室・墨田区保健衛生部健康推進課

「がん教育」の概要

がん教育の目標

- がんについて正しく理解できる
- 命の大切さについて考える
- がんについて科学的に理解できる
- 地域の状況、保健活動を知る

※成人のがんについての一般的な知識を学ぶもので、小児がんについて学ぶものではありません。

がん教育の対象

小学校6年生、中学校2年生

※保健学習で体や病気について学ぶ学年



がん教育の内容

基本的には、保健学習の中で2時間の授業を行います。
養護教諭や担任・体育科教員による授業と、外部講師
(医師や患者経験者等) による体験談を交えて授業を行います。



例

1時間目	「がんのことをもっと知ろう」 ① がんとはどんな病気？ ② がんを予防するためには？
2時間目	「もしも身近な人ががんになったら」 ① がんの治療・緩和ケア ② がんになった方のお話を聴きましょう

※授業を実施するにあたり、家族をはじめとした身近な人に、がんの治療中等の方がいるお子さんへの心理的配慮を行った上で授業を進めていきます。

！ 墨田区における「がん教育」

墨田区では小・中学校におけるがん教育を重要な課題と捉え、平成27年に区立小・中学校各1校でモデル授業、平成29年より区立全校でがん教育を実施してきました。国や都の示す「がん教育の在り方」を踏まえ、教育委員会事務局指導室と保健計画課（現 健康推進課）が連携しながら、誰でも指導できる教材「がん教育パッケージ」を開発し、医師や患者経験者をゲストティーチャーとして派遣する仕組みを作りました。学校医や墨田区医師会とも連携し、学校に実態に合わせた、よりよい「がん教育」を今後も実施していきます。

学習教材の内容

「墨田区がん対策推進会議」の専門部会（がん教育部会）において、保健所との協働で学習教材を作成しました。

がんの知識について

がんとは、どんな病気かについて学習します。

がんとはどんな病気？

Q. 日本人が一生のうちがんになる確率は？

男性では **61.1%** (※2)
女性では **50.1%** (※2)

いま、**日本人の2人に1人**が、一生のうちにがんになるといわれています。

※1 がんとは、正常な細胞ががん細胞に変化し、増殖を繰り返す病気です。
※2 国立がん研究センター がん対策情報センター「がん登録と統計」より

保護者の方へ

がんは、健康な人でもなる可能性があるということについて話し合しましょう。

がんとはどんな病気？

がんができるしくみ

異常を持った細胞が1個できる（修理されずに残る）

異常を持った細胞が増える

異常な細胞がさらに増えて、かたまり（がん）になる。がん細胞のたちが悪化し、周囲に広がる

血管などに入り込み、全身に広がる

がんの予防について

がんの予防方法について学習します。

① たばこを吸うとがんになりやすい

たばこを吸う人の死亡率は、吸わない人と比べて、男性は1.6倍、女性は1.9倍（がん以外の原因も含む）

出典：国立がん研究センター

肺、のど、口の中のほか、食道や肝臓、胃、すい臓、子宮、ぼうこうなど、たくさんの場所ががんになりやすくなります。

たばこを吸うと心臓病、脳卒中などの危険性も高くなる

保護者の方へ

規則正しい生活習慣を確立することが、がんの予防につながるということについて話し合しましょう。

がんを予防するために、食生活で気を付けたいこと

血分をとり過ぎない
350gの野菜
野菜・果物不足にならない
飲食物は飽くまばとらない

野菜はがんのリスクを上げる

野菜を、1日350gを目安に食べましょう。
塩分は、男性1日7.5g未満、女性6.5g未満が目安です。

食事はかたよらず、バランスよく

がん検診について

がんの早期発見について学習します。

がんは早期発見が大切

がんを早い段階で見つけることで、治療によって治せる可能性が、確実に高くなります。

墨田区のがん検診の種類

がんの種類	対象年齢
胃がん(バリウム)	40才以上
胃がん(内視鏡)	50才以上
大腸がん	40才以上
肺がん	40才以上
子宮けいがん(女性)	20才以上
乳がん(女性)	40才以上

がん検診のご案内

症状がなくても、検診を定期的に受けることが大切です！

お父さんやお母さんもがん検診を受けているのかな？

保護者の方へ

がんには、早期発見、早期治療が大切であることについて話し合しましょう。

自分だったらがん患者さんどう接するか話し合しましょう。

もしも身近な人ががんになったら

がんの治療方法や緩和ケア、チームケアについて学習します。

がん患者さん・家族を支える人たち

がん相談支援センター
診療所・クリニック
薬局・薬剤師
医師
はつちん看護
学校・スクールカウンセラー
がんの専門医・一般の医師、看護師、アロマセラピスト
ケアマネ、ヘルパーさん
保健所
がんセンター

外部講師を招いた授業

がん教育では、がん経験者等を招いた授業を実施します。外部講師からお話を伺うことで、身近な人ががんになった時にどう接するとよいか、自分は何ができるかを考えるとともに、命の大切さについて学びます。

（がん経験者の体験談を収録したDVDを活用する場合があります。）

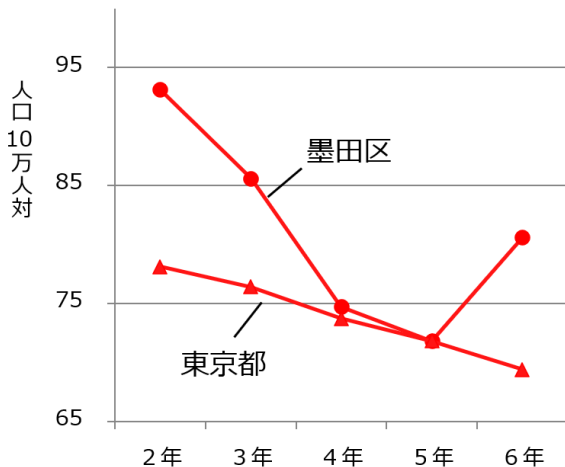


墨田区のがんの状況

墨田区民のがんによる死亡率は、年々着実に下がってきています。

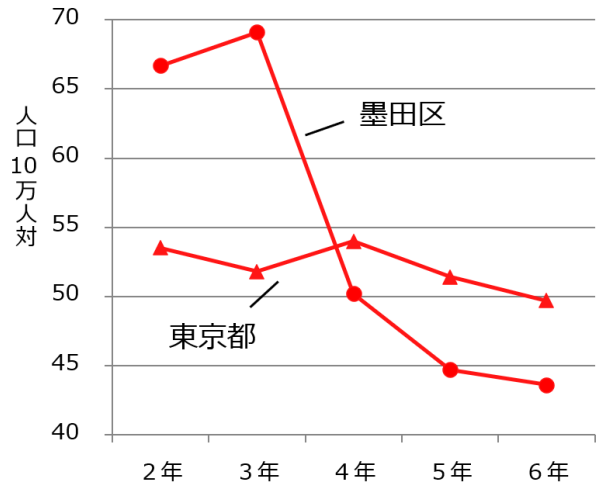
男性・がん死亡率

(75歳未満年齢調整死亡率・全てのがん)



女性・がん死亡率

(75歳未満年齢調整死亡率・全てのがん)



出典: 東京都ホームページ「受けよう!がん検診」

がんの死亡率を下げるために必要なことは、

まず、「**がんを遠ざける生活習慣を心掛けること**」

そして、「**がん検診を受けて、早期発見・早期治療につなげること**」です。

しかし、墨田区民のがん検診受診率は、右の表のとおり、23区内で比べても低くなっています。がんを早期発見するには**健康な時から定期的にがん検診を受診することが大切**です。

がん検診の受診率（令和6年度）

検診の種類	墨田区の受診率	東京都平均	23区順位
胃がん検診	17.0%	13.9%	11位
大腸がん検診	14.0%	13.2%	12位
肺がん検診	8.8%	9.0%	15位
子宮頸がん検診	23.6%	25.9%	18位
乳がん検診	29.7%	27.2%	11位

区のがん検診を受けましょう！

区のがん検診は **無料または低額の負担**で受けられます。

がん検診を受診するには、申込みが必要です。右の「**すみだ けんしんダイヤル**」へ電話でお申し込みください！

がん検診申込み専用コールセンター
すみだ けんしんダイヤル

TEL 03-5608-1599

【受付時間】（祝日・年末年始を除きます）
月曜日～金曜日 午前9時～午後6時

<墨田区のがん検診一覧>

- | | | | | |
|----------|--------|--------------------------|------|------------|
| ■胃がん検診 | 【検査方法】 | 胃部エックス線検査（バリウム）
内視鏡検査 | 【対象】 | 40歳以上の区民 |
| ■大腸がん検診 | 【検査方法】 | 便潜血検査（検便） | 【対象】 | 50歳以上の区民 |
| ■子宮頸がん検診 | 【検査方法】 | 視診・子宮頸部の細胞診 | 【対象】 | 40歳以上の区民 |
| ■乳がん検診 | 【検査方法】 | マンモグラフィ検査 | 【対象】 | 20歳以上の女性区民 |
| ■肺がん検診 | 【検査方法】 | 胸部エックス線検査等 | 【対象】 | 40歳以上の女性区民 |

がん教育についての問合せ先：墨田区教育委員会事務局指導室 TEL 5608-6307
がん検診についての問合せ先：墨田区保健衛生部健康推進課 TEL 5608-8514